

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	本プロジェクトをモデルとした、地域活性化の中核を担う人材の育成に向けたアプローチが、マラウイ共和国(以下、マ国)の他地域において活用される。
(2) 事業の必要性 (背景)	<p>後発開発途上国のひとつであるマ国は、人口の 52.4%、約 630 万人が貧困ライン以下の生活を送っており、都市部に比べて農村部の貧困度が高くなっています(マラウイ成長・開発戦略(MGDS: Malawi Growth and Development Strategy, 2006))。マ国長期国家開発計画(Vision 2020, 2000)でも、貧困削減が国家の最大目標として位置づけられています。このようなマ国において、農業部門が GDP の約 30%、就労人口及び輸出額の 85%を占めており、農業・農村開発が、貧困削減に資する持続的経済成長を達成するための重要な開発課題となっています。その一方で、天水に依存する自給自足型の小規模農業が多く、旱魃等の自然災害にも脆弱で生産性も低い状態です。さらに、農業生産における外部投入資材価格の高騰、土壌の劣化、市場へのアクセスの欠如、不十分な農業研究・普及サービス等の問題が生産性の向上を妨げており、食料供給の安定確保はマ国経済、ひいては MDGs 目標1:極度の貧困と飢餓の撲滅達成の大きな課題となっています。</p> <p>このような背景の下、農業食料安全保障省を中心に農業セクターワイドアプローチ(ASWAp)が策定され、食料安全保障を含む 3 項目が重点課題に設定されました。これら課題は、「農業技術の研究・普及」、「制度構築・能力構築」の 2 つの主要支援業務によって強化するとされており、特に前者については農民主導の普及が謳われています。</p> <p>当協会は 2005 年から 2009 年まで、農民の自立を目標とし、農業技術を農民自らが普及する事で農民の食料充足率や収入の向上を図り、農民自身が考え判断し、行動するようソフト重視のアプローチでプロジェクトを実施してきました。この先行プロジェクトの評価では、他地域の農民に意識や技術を伝達する人の出現や収入の向上等の結果が得られています。その成果を踏まえて 2009 年 8 月からは、更なる農業技術の改善を支援し、農業経営管理能力および販売能力の向上に移行してきました。また、伝達農家<sup>1)</sup>による組織化を支援することで、技術の効果的な波及を図るネットワークの確立と伝達活動の継続性を高めることに取組み、地域活性化の中核となる自立した農民グループの形成を目指しています。このことは、マ国の重要開発課題である農業・農村開発において、その課題解決に向けて重要な要素である農業技術の普及、その中でもマ国政府が取り組む「農民から農民への技術の普及」に対して大きく貢献するものであると確信しています。</p> <p>また、マ国では 2011 年以降を対象とする新たな開発戦略が作成される予定ですが、この開発戦略においても、これまで優先課題として挙げられている 6 つの分野に加えて「青年育成・能力開発」も対象とされる予定です。この課題に対応する観点からも、地域並びに国の発展のために技術・情報を積極的に伝達していこうとする人材の育成を目的とした本プロジェクトの意義は大変大きいと考えます。</p> <p><sup>1)</sup> 本事業を通じて獲得した知識と技術を、地域住民と共有することへの自発的な行動を起こす人達を指す。</p>
(3) 事業内容	<p>第 2 フェーズまでの成果を踏まえ、伝達農家による研修実施を促進すると共に、本フェーズの活動では農民による研修の側面支援、農民組織化とグループ間活動の促進、政府関係機関との連携強化を最優先実施課題として取り組んでいきます。これにより、事業の持続発展性の確保と上位目標達成を図り、プロジェクト終了までに本プロジェクトアプローチがマ国政府の農業普及サービスの手法として採用されることを目指します。具体的な活動内容は以下の通りです。</p> <p>(イ) 伝達農家による研修実施を更に促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝達農家による、地域リソースを活用した農業技術等に関する研修実施を側面支援し、JOCA スタッフが直接実施する同研修は徐々に収束させる。</li> <li>・ グループの記録付けに関する能力強化に向けフォローアップを実施し、より有効なデータ収集を図る。</li> <li>・ 伝達農家が実施した研修に関する情報を管理・整理する。</li> </ul>

	<p>(ロ) 農民グループの農業経営管理能力の向上および販売活動を促進するための研修を行い販売能力の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既に生産拡大に成功し、市場調査や販路拡大を図っている農民グループに対し、販売活動強化と情報・経験の共有を通じたフォローアップを行う。また他の農民グループへは、研修によって同様の波及効果の実現を支援する。</li> </ul> <p>(ハ) 伝達農家の育成を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝達農家の研修実施促進及び伝達農家としての質の向上を図るため、研修前後の情報・経験の共有を通して、自ら研修を実施できることを伝え、支援する。</li> </ul> <p>(ニ) 伝達農家による伝達活動に有効な情報の共有や共同活動を推進することで、プロジェクト終了後の自立的な伝達活動の継続を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝達活動及びグループ活動継続の鍵となる組織強化と共同活動の展開を図る。</li> </ul> <p>(ホ) 本プロジェクトの意義やノウハウを熟知し、他地域への本プロジェクトモデルを展開する能力を持つファシリテーター育成のための研修を実施する。また、その活動を行う上での指針となるファシリテーターズ・ガイドラインを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターは、政府普及員、プロジェクト現地職員、農民リーダー／伝達農家を想定する。</li> </ul> <p>(ヘ) 本プロジェクトアプローチの有効性を実証するため、第2フェーズにおいて新規に拡大した対象地域における活動を継続し、農業食料安全保障省農業普及局の本アプローチへの理解促進と、同省が行う普及サービスにおける本アプローチの活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及員等関係機関スタッフとの連携強化を図るとともに、プロジェクトアプローチの理解促進を図るための研修を実施する。</li> <li>・農業省関係機関等への渉外活動を強化する。</li> <li>・伝達農家および政府関係機関との協調体制を強化するためのステアリングコミッティー<sup>2)</sup>を組織し、定期的に会合を開催することでプロジェクト終了後の政府からの支援の継続を図る。</li> </ul> <p><sup>2)</sup> 伝達農家と政府関係機関(県農業事業所、普及員等)が報告、意見交換、協力要請、今後の方向性等について協議し、連携促進を図る会合。</p>
(4) 持続発展性	<p>本フェーズでは、今までのプロジェクト成果として具体的に発展しつつある農民グループが連携した情報伝達のネットワーク形成やマーケティング共同活動等の面的な活動を実施することで地域の活性化を促し、農民がより大きな課題を解決していく術と力を持つことを目指します。そのプロセスこそが、自ら主体的に地域を考える農民を育て、持続発展性を確保することにつながります。他方、本プロジェクトの事業モデルが政府や他の援助機関等によって採用されることで、マ国全体への普及につながることを目指します。</p> <p><b>【対象地域(ムジンバ県)における持続発展】</b></p> <p>(イ)「ファシリテーション・マニュアル」(第2フェーズ)、「ファシリテーターズ・ガイドライン」(第3フェーズ)を十分に活用してプロジェクト手法を普及するファシリテーター(政府普及員、プロジェクト現地職員、農民リーダー等)を育成し、プロジェクトの持続発展性を確保する。</p> <p>(ロ)特に本プロジェクト(第2フェーズ)で作成した「ファシリテーション・マニュアル」が普及員の業務で活用されるよう、働きかけを強化する。</p> <p>(ハ)伝達農家を中心となった農民組織のグループ共同活動について、政府普及員による公的な支援とフォローアップの実施体制を作る。</p> <p>(ニ)地域関係者によるステアリングコミッティーを設置し、プロジェクト終了後も活動の継続が図られることを目指す。</p> <p>(ホ)プロジェクト現地職員(プログラムオフィサー、元地域普及計画地域事務所(EPA)所長)の農業食料安全保障省農業普及局もしくは他関係機関へのアドバイザーとしての配置の可能性を模索する。</p> <p>(ヘ)プロジェクト終了後3~5年間程度、年1回の短期専門家及び職員の派遣によるフォローアップを実施し、ステアリングコミッティーへのフォローを重点的に行う。</p>

	<p><b>【マ国全体における持続発展】</b></p> <p>(イ) マラウイ政府による本プロジェクトアプローチの採用</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本プロジェクト(第2フェーズ)で作成中の「ファシリテーション・マニュアル」の政府普及員の業務における活用の働きかけを強化する</li><li>・本プロジェクト(第3フェーズ)で作成予定の「ファシリテーターズ・ガイドライン」の普及員育成過程での使用を促進する(第3フェーズ期間内での採用を目指す)</li></ul> <p>(ロ) プロジェクト終了後3年間、年1回の短期専門家及び職員の派遣によるフォローアップを実施する。</p> <p>(ハ) 研修実績の記録証明</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伝達農家に対して研修記録証明書を発行し、研修を積み重ねるたびにその内容を記録し、政府農業普及所長が署名する。</li></ul> <p>(ニ) プロジェクト成果の普及・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・マ国農業関係機関及び国際協力機関等とのワークショップ開催</li><li>・全国版テレビ、ラジオ、新聞および地方ラジオ(例:ムジンバコミュニティラジオ)等メディアを活用した発信を行う</li></ul>
--	--

(5) 期待される成果と成果を測る指標	<p>(イ) グループメンバーが持続的な農業技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ圃場およびメンバー個人の圃場において、地域リソースの活用度が 3 割以上向上する。</li> <li>・ 作付計画を作成するグループが 8 から 15 に増える。</li> </ul> <p>(ロ) グループメンバーの農業経営管理能力と販売能力が向上する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループメンバー自ら市場調査を行い、販売ルートを把握するグループが 10 から 15 に増加する。</li> <li>・ グループメンバー自らの販路開拓が 10 件程度行われる。</li> </ul> <p>(ハ) 本事業を通じて得た知識・技術を自発的に地域住民に普及する伝達農家が育つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝達農家が 1 グループ 5 人以上育成される。</li> </ul> <p>(ニ) 対象地域においてグループ間活動を活性化するための伝達農家による委員会が結成され、活発な活動が展開される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝達農家による委員会活動の計画が立てられ、実践される。</li> <li>・ 停滞グループの再活性化、新規グループの組織化が図られる。</li> </ul> <p>(ホ) 対象地域においてグループ間の共同活動が実施される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内においてグループ間の研修、フィールドデイ、視察、会合等が定期的実施される。</li> </ul> <p>(ヘ) 本プロジェクトのファシリテーターズ・ガイドラインを作成し、それを実践できるファシリテーターが育つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業のファシリテーターズ・ガイドラインが作成される。</li> <li>・ ファシリテーターが 4 名以上育成される。</li> </ul> <p>(ト) 政府等関係機関により本事業のコミュニティ・エンパワーメントに関する手法が認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規対象地域において伝達農家が 15 名以上育つ</li> <li>・ 政府等関係機関によるコミュニティ・エンパワーメントに関する会議に定期的に参加し、本事業による手法を発信する。</li> <li>・ 本事業に賛同する政府職員が対象地域の農業事務所において 60%以上になる。</li> <li>・ マ国農業食料安全保障省が、本プロジェクトアプローチを農業普及サービスに活用する。</li> </ul> <p>■ 期待される成果</p>																																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>成果を測る指標</th> <th>初期値</th> <th>フェーズ1 2010年 (達成値)</th> <th>フェーズ2 2011年 (見込値)</th> <th>フェーズ3 2012年 (期待値)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">(イ)</td> <td>地域リソース活用度</td> <td>-</td> <td>約 10%</td> <td>-</td> <td>+20%=30%</td> </tr> <tr> <td>作付け計画作成グループ数</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>+4=8</td> <td>+7=15</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(ロ)</td> <td>市場調査(グループ数)</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>+2=10</td> <td>+5=15</td> </tr> <tr> <td>販路開拓(件数)</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>+1=8</td> <td>+2=10</td> </tr> <tr> <td>(ハ)</td> <td>伝達農家数(人)</td> <td>39</td> <td>61</td> <td>+9=70</td> <td>+20=90 (1グループ5人)</td> </tr> <tr> <td>(ヘ)</td> <td>ファシリテーター数(人)</td> <td></td> <td>-</td> <td>+1=1</td> <td>+3=4</td> </tr> <tr> <td>(ト)</td> <td>第2フェーズ拡大地域伝達農家数(人)</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>+10=10</td> <td>+5=15</td> </tr> </tbody> </table>		成果を測る指標	初期値	フェーズ1 2010年 (達成値)	フェーズ2 2011年 (見込値)	フェーズ3 2012年 (期待値)	(イ)	地域リソース活用度	-	約 10%	-	+20%=30%	作付け計画作成グループ数	0	4	+4=8	+7=15	(ロ)	市場調査(グループ数)	1	3	+2=10	+5=15	販路開拓(件数)	1	7	+1=8	+2=10	(ハ)	伝達農家数(人)	39	61	+9=70	+20=90 (1グループ5人)	(ヘ)	ファシリテーター数(人)		-	+1=1	+3=4	(ト)	第2フェーズ拡大地域伝達農家数(人)	0	-	+10=10
	成果を測る指標	初期値	フェーズ1 2010年 (達成値)	フェーズ2 2011年 (見込値)	フェーズ3 2012年 (期待値)																																									
(イ)	地域リソース活用度	-	約 10%	-	+20%=30%																																									
	作付け計画作成グループ数	0	4	+4=8	+7=15																																									
(ロ)	市場調査(グループ数)	1	3	+2=10	+5=15																																									
	販路開拓(件数)	1	7	+1=8	+2=10																																									
(ハ)	伝達農家数(人)	39	61	+9=70	+20=90 (1グループ5人)																																									
(ヘ)	ファシリテーター数(人)		-	+1=1	+3=4																																									
(ト)	第2フェーズ拡大地域伝達農家数(人)	0	-	+10=10	+5=15																																									